

三橋 最終講義

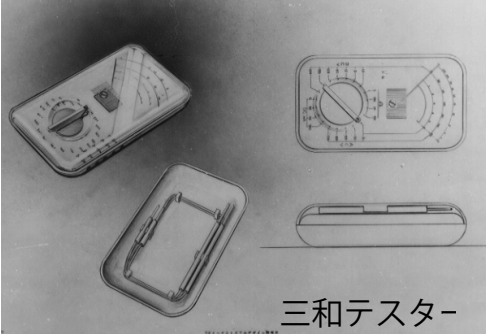
What is Design?
What to Design?

20150213

Life Design

$$6 \cdot 6 \cdot \underset{3+3}{6} \cdot \underset{2+4}{6} \cdot 18$$

1973-1985



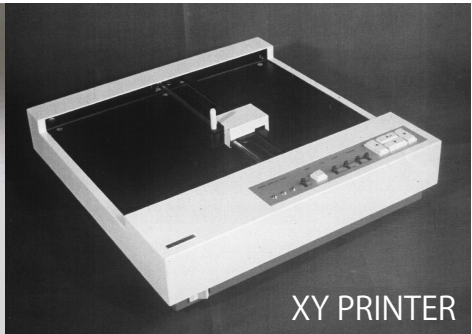
三和テスター



SEIKO 麹町通り



アルプス電気



XY PRINTER



SEIKO 新都ホテル



SEIKO 国際競技用



SEIKO 羽田飛行場



SEIKO 柏駅



ETAC 環境試験機



日本石油 給油ポンプ



CITIZEN PRINTER



東京スタイル ファッション家具

デザインとは？

デザインの定義（1）

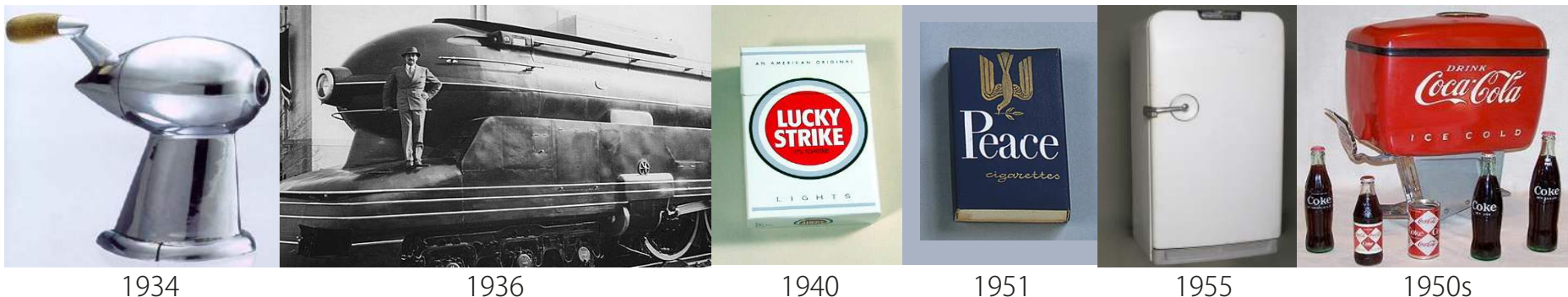
Industrial design is the professional service of creating and developing concepts and specifications that optimize the appearance, function and value of products and systems for the mutual benefit of both user and manufacturer.

デザインとは使用者と作り手双方の利益のための
プロフェッショナルサービス

(Industrial Designers Society of America)



RAYMOND LOEWY

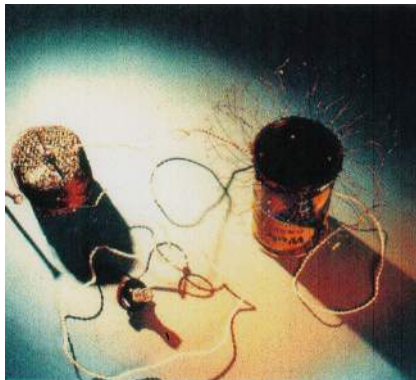


デザインの定義（2）

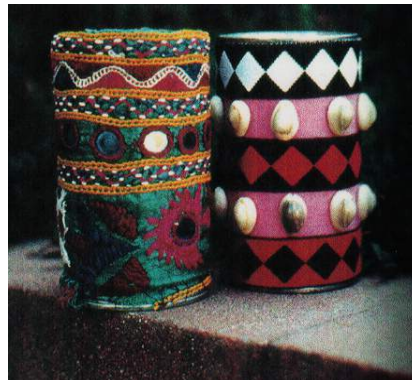
Industrial design is a process which embraces both the establishment and definition of a problem, and the manner of its solution.

デザインとは問題の発見とその解決の双方を含むプロセス

(The association of Quebec Industrial Designers)



9 cents radio receiver designed for the Third World.



The same radio decorated With colored felt cutouts and seashells by a user in Indonesia. UNESCO



Victor Papanek
(1923 – 1998)
Design for
the Real World :
Human Ecology and
Social Change

ユニバーサル・デザイン



T君のための意思伝達装置のデザイン

三橋 1973

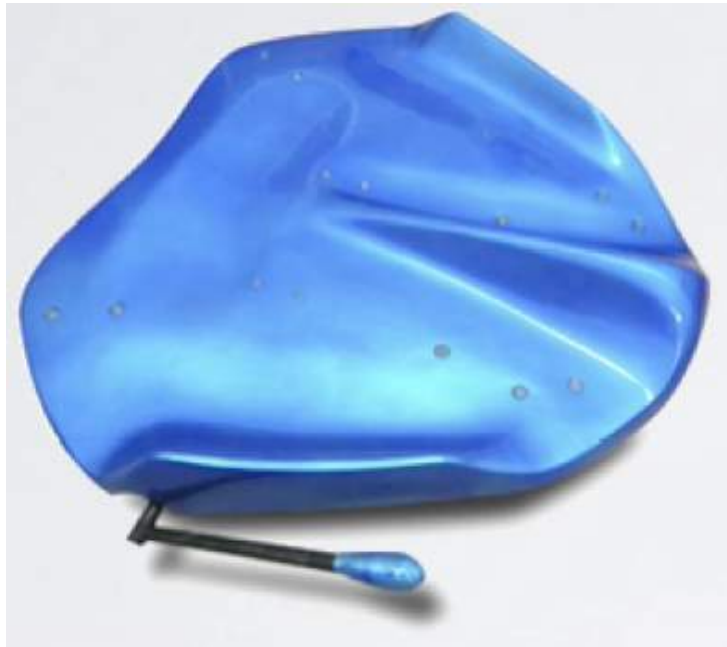


the fundamental human DIGNITY

人間の基本的尊厳

空飛ぶザブトン

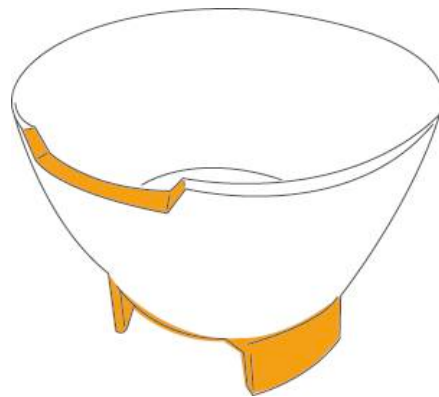
四肢に不自由があるユーザーのための室内用移動機器のデザイン



パラリンピックに向けて

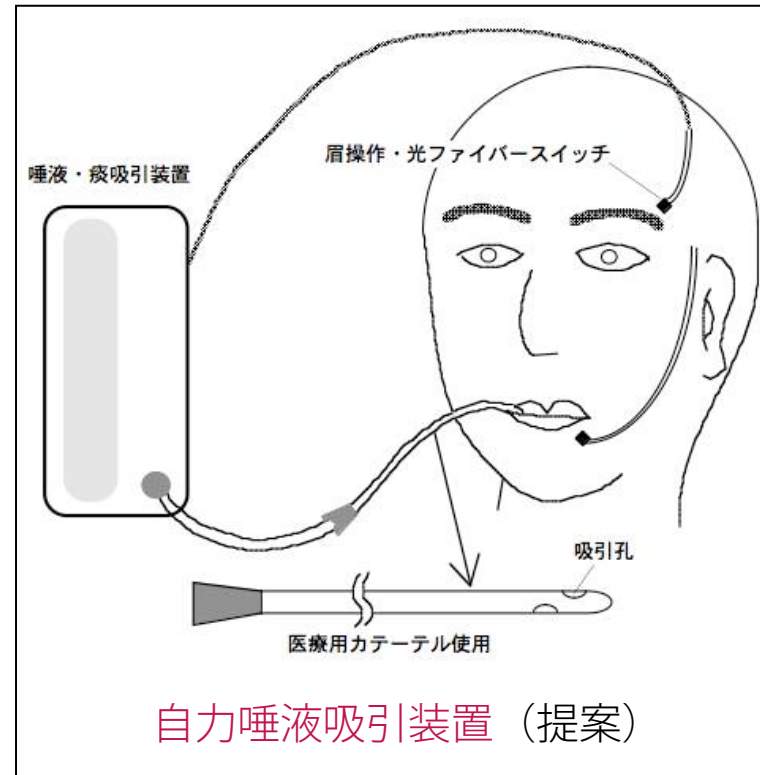


全盲学生のための食器デザイン





ALS（筋萎縮性側索硬化症） T氏のための福祉機器デザイン



高齢者と子どもを繋ぐ遊具デザイン



「玉落としゲーム」



「デコレーションゲーム」



「顔はめキャンパス」





ベッド柵をはずす



車椅子へ移乗



エプロンを付ける



座り直す



食事介護



食事介護



ベッドへ移乗



おむつ交換



体位変換

専門家によるビデオ解析・評価

介護の種類			不適合の評価									人数		不適合の内容
食事介護	おむつ交換介護	全体	適正介護誘導性	自助能力誘導性	介護参加性	一連介護合理性	用具が浮いている	癒し・心の安寧	介護技術	介護制度	その他			
<input type="checkbox"/>						■						4	エプロン	着脱しやすいエプロンの必要性
<input type="checkbox"/>								■				6	車椅子	車いすですばやく体を安定させるべき
<input type="checkbox"/>					■							5	食事	食事環境が悪い、美しく、姿勢・向き
<input type="checkbox"/>									■			5	口腔ケア	食後の口腔ケアの必要性
<input type="checkbox"/>									■			8	食後	食後すぐに寝かせるのはよくない
		<input type="checkbox"/>				■						6	ベッド柵	取り外しの便利なベッド柵が必要
		<input type="checkbox"/>						■				5	ベッド	ベッドまわりが雑然としている
	<input type="checkbox"/>								■			6	オムツ	体位変換が多くて本人がつらそう
	<input type="checkbox"/>								■			4	オムツ	おむつ交換時は陰洗もするべき
	<input type="checkbox"/>		■									5	オムツ	中腰での作業が長い（ベッドが低い）
	<input type="checkbox"/>		■									4	介護技術	ベッドの高さ調節の必要性
		<input type="checkbox"/>									■	6	空間	部屋が狭い
		<input type="checkbox"/>			■							11	会話	声かけが少ない
		<input type="checkbox"/>			■							4	環境	利用者の意識を高める工夫が必要（食事、雰囲気）
											■	4	会話	家族とのコミュニケーション
		<input type="checkbox"/>		■	■			■				6	不安感	介護されることへの不安感除去（移乗時の手掛け）
		<input type="checkbox"/>		■								10	自助	右手の残存能力を活用できるような介護

評価は、在宅介護支援センター相談員1名、訪問介護提供事業者1名、介護老人福祉施設相談員1名、社会福祉協議会職員1名、ホームヘルパー2名、生活保護ケースワーカー2名、老人ホームパート1名、地方公務員3名、市役所職員1名、記者1名の計14名で行った（1999年）

在宅高齢者介護問題の解決に必要な設計指針

1) 適正介護姿勢誘導性デザイン (Design toward a proper posture)

介護者が無意識のうちにも適正な介護操作・介護姿勢がとれて、介護者の身体的負荷を軽減することのできる介護用具デザインのあり方

2) 自助能力誘導性デザイン (Design toward self-help possibility)

介護用具を使用する際に無意識のうちにも要介護者の身体的・精神的能力を高め、自立に向かわせることのできる介護用具、自助具デザインのあり方

3) 要介護者の介護参加性デザイン (Design toward patient active participation)

要介護者が介護サービスの一方的な受け手となるのではなく、介護行動に参加できるための介護用具デザインのあり方

4) 一連介護合理性デザイン (Design toward rationality of the whole process)

個々の介護用具と介護動作の関係をみるのではなく、一連の介護用具・介護動作の総体に焦点を当てて介護労働の軽減を目指す合理的な介護用具システムデザインのあり方

5) 介護用具が浮いているデザイン問題 (Design toward place-appropriate healthcare equipment)

在宅介護空間において、「畳にピアノ」のように、生活感覚、生活スケール、生活様式、嗜好性などに介護用具が馴染まない、「浮いている」問題を解決する感性的介護用具デザインのあり方

6) 「癒し・心の安寧」デザイン (Design toward healing of mind)

要介護者を取り巻く道具環境において、道具の使用やその環境に身を置くことで精神的な癒しや心の安寧を得ることのできる介護用具デザインのあり方

福祉機器開発事例

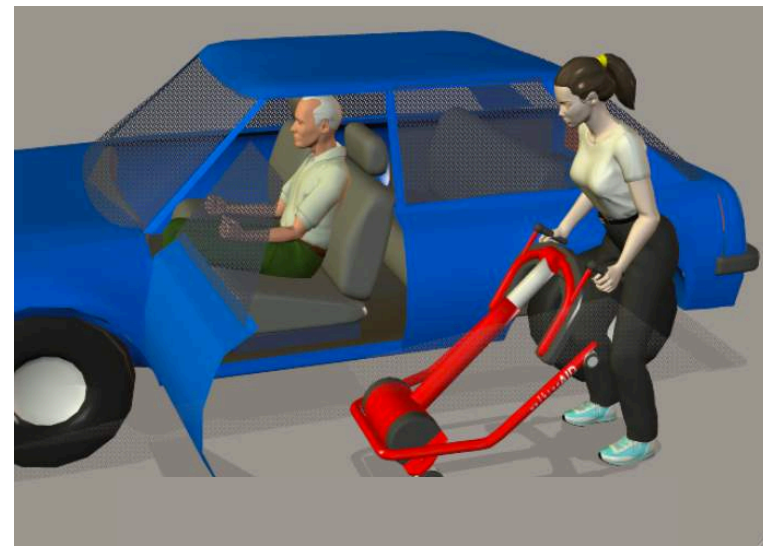
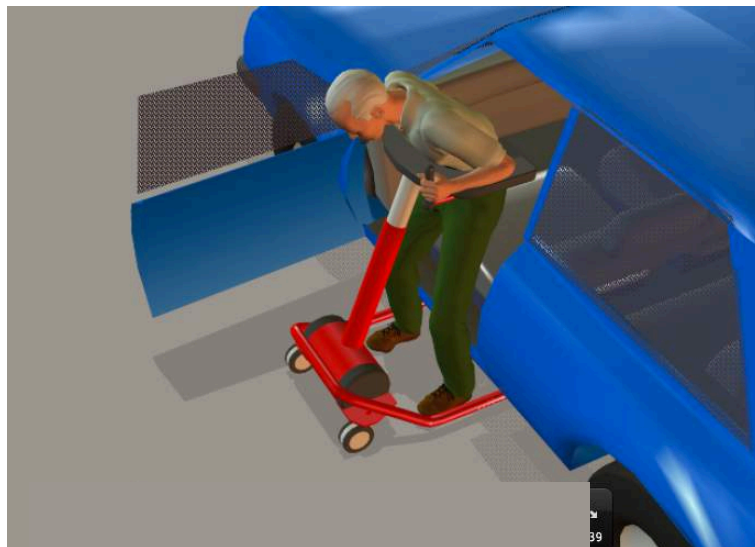
適正介護姿勢誘導性＋要介護者の介護参加性＋自助能力誘導性 デザイン

取っ手付ヘルパーベスト

ヘルパーが取っ手付ベストを着用することで、移乗介護や寝返り介護時に、要介護者の介護への参加を促すとともに、本人の自助能力の向上にもつながる。



上下動支援型・歩行器デザイン

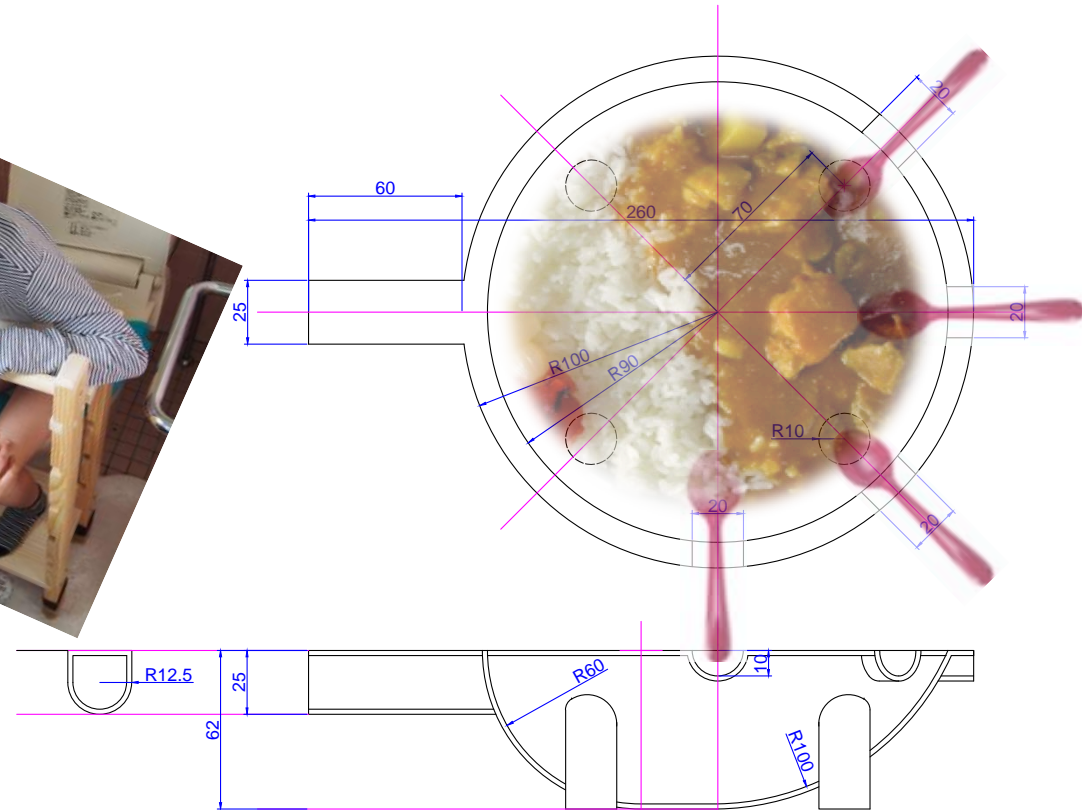


上下動支援型・歩行器デザイン



ありさ12才

精神発達遅延児のADL、および
親子間コミュニケーションの自立支援に向けた
自助具・自助環境デザインの開発



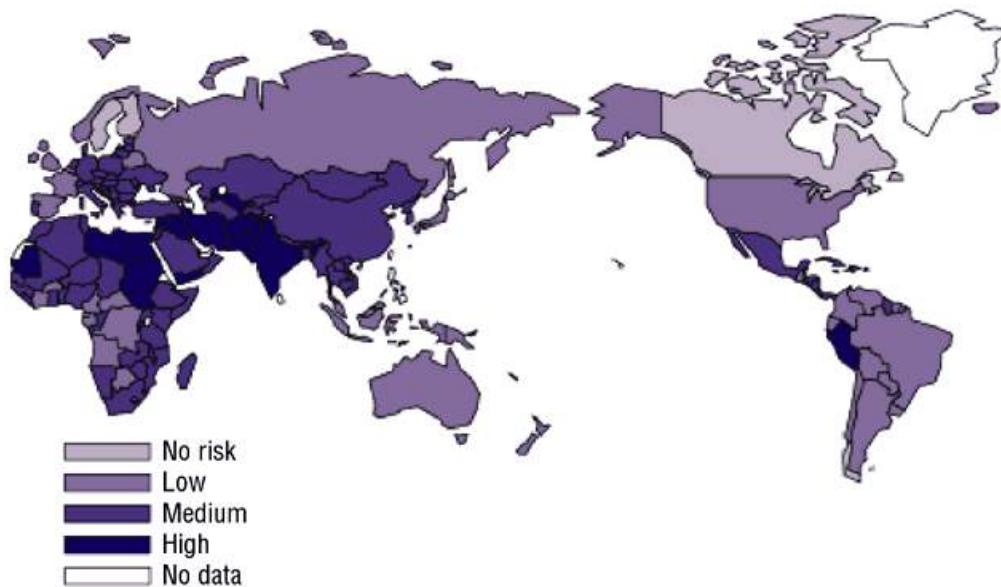
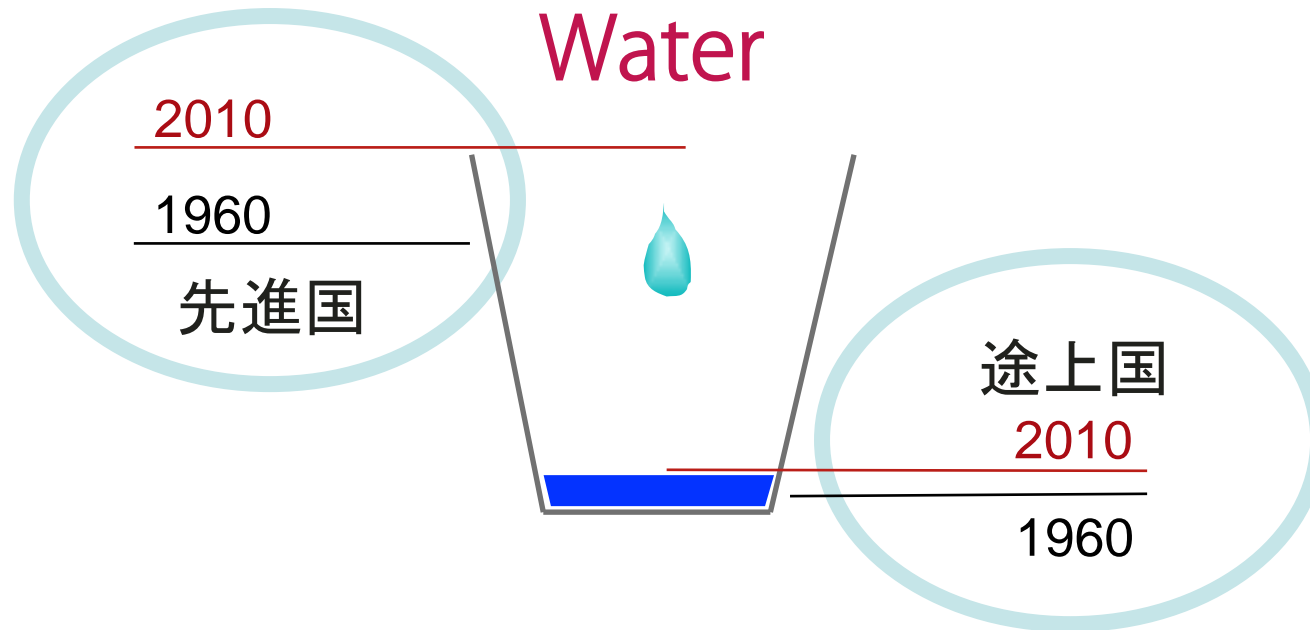
「お母さん」と呼ぶ・トイレを教える・自分一人で食べるために

グローバルな視座

環境問題

開発問題

But !! Water



水不足の危機

From Stockholm
Environment Institute ,
Comprehensive
Assessment of the
Fresh-water Resources
of the World,1997

What is a Human Development ?

Gender



臼で粟を搗く



自動粉挽き機



搗いた粟粉



少女の薪割り

Authenticity ?



World Heritage Mosque in Mali Djenné



Mosque of concrete in Mali Mopti
Is it Appropriate Technology?

內發的發展

人·自然·生活文化

地域が主人公？

例えば新幹線とドッキングした
スキー場の開発・JR

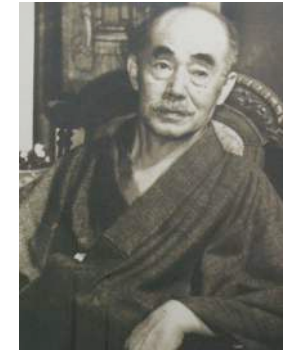


日本バブル時代：1980年代後半～1990年代初頭

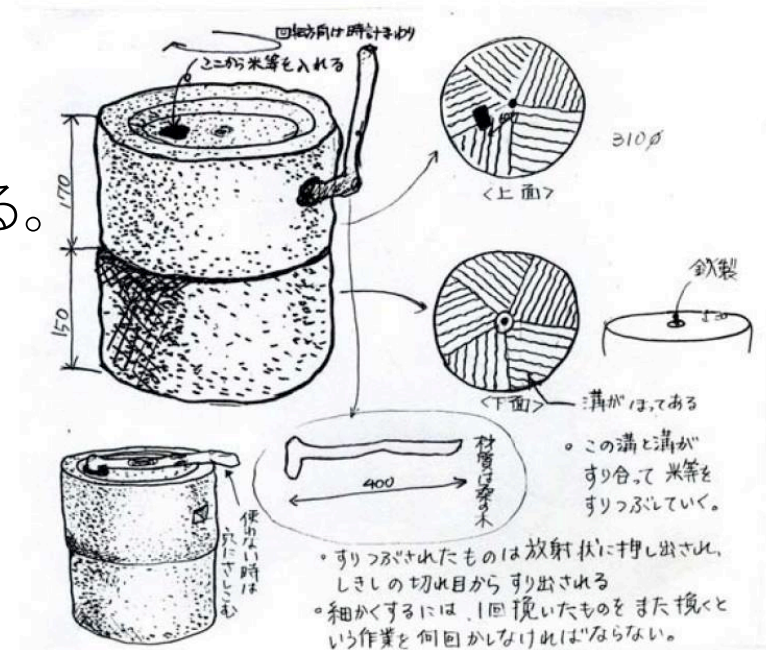
内発的地域づくり・地域の光をデザインする 1998～



柳田国男：地域理解の3視点



- 1) 目の採集：
石臼の外観をスケッチし、大きさ、
構造などを調べる。
- 2) 耳と目との採集：
石臼づくりの技術、使い方などを調べる。
- 3) 心の採集：
地元の方の話から、度重なる飢饉にお
いて、屑米を石臼で挽き村人を救った、
村人の石臼への感謝の「想い」を汲み
取ることができた。



青森県稲垣村でおこなった「石臼（しうす）」の生活文化調査（1995）の事例

野に出て生活を学ぶ 環境共生教育の実践・2008～

日常の生活文化に「地域の光・価値」が存在する



1998～ 宮津市・自然共生・生活文化調査

環境共生教育の実践・2008～

年度	フィールド	参加者	実施日	テーマ	演習内容（ものづくり体験）	演習内容（その他）	住民交流
2008	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (34)	2009・02・16～ 17 (1泊2日)	伝統的ものづくり体験 を通し環境共生を学ぶ	①ワラ箒づくり、②ミカンモチ作り ③リサイクル紐のカゴづくり	①失禁防止体操を習う ②ロープワークを体験する	由良住民と懇談会 (山田山荘)
	大野演習 (南丹市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (31) 3) NPO (1)	2009・02・23～ 24 (1泊2日)	大野村の自然共生的生 活を学ぶ、体験する	①味噌づくり ②ワラつと納豆づくり ③ぼた餅づくり	①大野の紹介 ②有機農業の取り組みについて ③府大演習林の役割について	大野住民と懇談会 (大野公民館)
2009	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (1) 2) 学生 (29)	2010・02・26～ 27 (1泊2日)	自然共生のものづくり を由良の高齢者に学ぶ	①孟宗竹を切り竹箸・竹器を作成 ②竹筒炊飯	①竹細工班、②ワラ箒づくり ③ミカンジャムづくり	由良住民と発表会 (山田山荘)
	大野演習 (南丹市)	1) 教員 (3) 2) 学生 (45) 3) NPO (1)	2010・03・01～ 02 (1泊2日)	有機農業の取り組みと 食づくりを大野の皆さんから学ぶ	①藁つと納豆づくり ②味噌づくり ③ぼた餅づくり	①大野の郷土料理の紹介 ②有機農業の取り組みについて ③府大演習林の役割について	大野住民とものづ くりを通して (大野公民館)
2010	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (32)	2011・02・22～ 24 (2泊3日)	自然共生のものづくり を由良の高齢者に学ぶ	①孟宗竹を切り竹箸・竹器を作成 ②こんにゃくづくり	①由良の自然共生調査 ②由良地区活性化提案	由良住民と発表会 (由良公民館)
	雲原演習 (福知山市)	1) 教員 (3) 2) 学生 (31) 3) インドネシア(1)	2011・03・07～ 09 (2泊3日)	雲原のエコミュージア ム体験	①そば打ち体験 ②灰汁づくり ③こんにゃくづくり ④わら草履づくり	①天座見学と普光寺で鬼伝説の話 ②おくど体験、水車米飯炊き、ぼたん汁 ③シカ・イノシシのワナづくり見学	雲原住民と懇談会 (雲原公民館)
2011	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (37)	2012・02・22～ 24 (2泊3日)	由良の地域づくり調査	①由良の伝統料理を学び調理する	①自給自足の生活技術を学ぶ ②各公民館で地域の方々に聞き取り調査 ③由良の地域づくり提案	由良住民と発表会 (由良公民館)
	雲原演習 (福知山市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (35)	2012・03・05～ 07 (2泊3日)	学校問題を考え、雲原 にさらなる活力を生み 出す	①水車小屋で料理体験（もちつき、お くどさん）	①猟師の話を伺い猟の道具を見る ②学校問題・地域問題を考え意見交換 ③班ごとに地域再生の提案	雲原住民と発表会 (雲原公民館)
2012	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (1) 2) 学生 (21)	2013・02・26～28 (2泊3日)	由良の地域力について	①孟宗竹を切り竹箸・竹器を作成 ②竹筒炊飯	①炭焼き窯づくりの技術を学ぶ ②各公民館で地域の方々に聞き取り調査 ③由良の地域づくり提案	由良住民と発表会 (由良公民館)
	雲原演習 (福知山市)	1) 教員 (1) 2) 学生 (27)	2013・03・12～ 14 (2泊3日)	地域の暮らしと問題を 知り、次の世代へつな げるには	①こんにゃくづくり ②餅つき ③そば打ち	①雲原・天座地域巡り、大歳神社 ②猟の道具見学と道具製作について ③天座田楽鑑賞、太鼓練習の見学・体験	雲原住民と発表会 (雲原公民館)
2013	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (3) 2) 学生 (15)	2013・08・20～ 22 (2泊3日)	由良のお宝発見と魅力 づくり	①由良の塩づくり ②小学生との砂像づくり	①由良のお宝（ブチ名所）調査 ②懇談会、③自然教室(由良の植物観察)	由良住民と発表会 (由良公民館)
	伊根演習 (伊根町)	1) 教員 (1) 2) 学生 (30)	2014・02・17～ 18 (1泊2日)	エコミュージアムとし ての伊根舟屋群の活性 化		①保存会会長・「海の京都」座長の講演 ②地元語り部による舟屋の暮らしの説明 ③インタビュー、2地区散策・調査	伊根住民と懇談、 インタビューなど
	雲原演習 (福知山市)	1) 教員 (1) 2) 学生 (26)	2014・03・25～ 27 (2泊3日)	地域を見て、聞いて、 歩いて、考える	①祭り太鼓の練習 ②調理・餅つき体験 ③薪割り体験	①猟師の話を伺い道具を見る ②祭り太鼓指導、「鬼退治伝説」講義 ③地域調査、食事準備、地域再生の提案	雲原住民と発表会 (雲原公民館)
2014	由良演習 (宮津市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (16)	2014・08・18～ 20 (2泊3日)	自給自足・自分の力で 生きることをY氏の生 活から学ぶ	①孟宗竹を切り竹箸・竹器を作成 ②藁ほうきづくり	①北前船展示館の見学、②地元の課題を 聞き、山田山荘の自給自足の生活を学習 ③ものづくりを通して住民と交流	由良住民と発表会 (由良公民館)
	岸谷・白滝演 習 (舞鶴市)	1) 教員 (2) 2) 学生 (10)	2014・08・23～ 25 (2泊3日)	中山間地域の生活を体 験し農村の文化と習俗 を体感する	①地藏盆の飾り付け ②松明行事の準備と参加 ③フキ畑の除草手伝い	①地域の紹介、地区内見学 ②地藏盆の飾り付け、松明づくり ③田の草取りなど住民指導のもと実践	白滝・岸谷住民と 発表会 (白滝公民館)
	伊根演習 (伊根町)	1) 教員 (1) 2) 学生 (25)	2014・09・08～ 09 (1泊2日)	暮らしと地域課題を学 び次世代につなげる方 法を考える	①90歳の藁職人から藁細工「わーわー さん」「交通安全お守り」の作り方を 習う	①保存会会長、「海の京都」座長の講演 ②地元語り部による舟屋の暮らしの説明 と散策	住民と懇談会 (福祉センター)



由良岳登山



由良岳の一杯水



由良岳山頂にて

自然の楽しみを発見する(山・川・田・浜)



湧き水と深田



ゼンマイ飛行機



カニ捕まえた



灯籠



お地蔵さん



天井の梁

生活文化の美しさを知る(お宝発見調査)

地元が気づかない魅力再発見



注連縄



漆塗り椀



鬼瓦



クツゴミ

山椒大夫のぞ
きからくり唄
最後の伝承者



100歳の具満さん



ソロバン

生活文化の技を知る(暮らしと農具調査)

由良石の
運搬具



足踏み杵



田の草取り機



浜大根を手に

エコパークの道づくり、小学生と田舟遊び

丹後由良駅
裏の開発



1 Haの
放棄田



じゅる
田で使
われた
田舟



宮津高校生とエコパーク・ウッドデッキづくり



2008年9月

水資源調査

宮津市奥波見集落

村人も行かない
山奥の滝

険しい山道を進んでいくと奥深い山の木々に囲まれて神秘的な雰囲気を感じながらこの滝が現れる。



①

水源近くのわさび



②

奥波見の簡易水道は、この水を利用している。



「奥後」の防火用水



消火栓



足跡

かつては2
畳もあった
共同水場



かつては畳2畳ほどの広さがあり集落の共同水場として使われていた。



田に水を導くため、土で川を堰き止める。



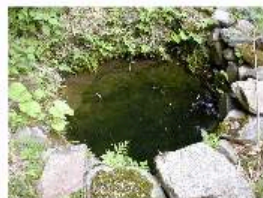
上流から下流へ、どの田圃にも等しく水が行き届くように、用水路が張り巡らされている。

洗濯岩で
洗濯しながら
井戸端会議

- ① 焼尾・藤ヶ森の滝
- ② 大口の水源池
- ③ 清水
- ④ 堰
- ⑤ 用水路
- ⑥ 洗濯岩
- ⑦ 水車小屋
- ⑧ 縦井戸
- ⑨ 横井戸
- ⑩ 鎌谷の水源
- ⑪ 鉄治さんの井戸
- ⑫ 湧き水利用の知恵
- ⑬ 防火用水

最期にあの
水が飲みたい
い
末期の水

山口さんの家にある横井戸の跡。横井戸の中は年中一定の温度で保たれており、農家の貯蔵庫としても利用されていた。



西川さんの家の裏にある縦井戸。水の大切さ、水への思いは、今も生きている。



「最期にあそこの水が飲みたい」末期の水として家族が汲みにくる。ここにも人びとの水への思いが感じられる。

鉄治さんの生活に欠かせなかった井戸。石のまな板が今もある。



山本鉄治さん
花子さん

田村よし子さん

品川泰志さん
芳子さん

品川千恵子さん

妙伝寺

橋本操子さん

山崎誠吾さん

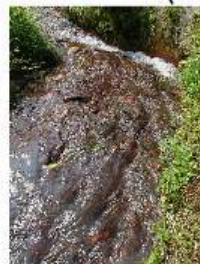
岩城 元さん
妙子さん

奥波見集落センター

村に水車
が2つ
あった



かつて水車小屋は「奥後」と「新谷」にひとつずつあった。籾すりや藁打ちなどの労働



冷たい湧き水を直接稲に当てないよう、囲いをして、日光で暖められた湧き水を田に入れる。

暮らしの中の動物調査 (宮津市奥波見)

エピソード	生物種	分類	時間	場所	報告者
牛舎に出現 飼料荒らし	タヌキ	ほ乳類	近年	品川さんの牛	品川泰志
4~5年前からサギの仲間が増加	サギ	鳥類	近年	田	山口貴
カッコウの声を聞く	カッコウ	鳥類	随時	山	田村百合子
フクロウがいる	フクロウ	鳥類	随時	集落近隣	田村百合子
オオスズメバチ=アカネブリ	オオスズメバチ	昆虫類	-	-	田村百合子
鹿が増えた	ニホンジカ	ほ乳類	近年	尾根づたい	田村嘉久芳
山奥の湧き水にカジカガエルがいる	カジカガエル	両生類	随時	山奥の沢	山口貴
鹿の角、足跡	ニホンジカ	ほ乳類	近年	尾根づたい	田村嘉久芳
モグラ=ムクロ	モグラsp	ほ乳類	-	-	田村百合子
ツバメを守る	ツバメ	鳥類	随時	軒先	田村百合子
虫おくり	ヌカ虫(イネの害虫)	昆虫類	80年前	田	山本鉄治
コウモリの巣	コウモリsp	ほ乳類	2001調査中	横穴	山口貴
奥波見ではハサミ狸が主流		ほ乳類		-	山本鉄治
ホタルの減少	ホタルsp	昆虫類	近年	水場 畑	田村百合子
15~20年前からクマ出没	ツキノワグマ	ほ乳類	15~20年前よ	畑 など	田村嘉久芳
キジ、ヤマドリ卵を食べた	キジ、ヤマドリ	鳥類	約40年前	-	田村嘉久芳
アオダイショウ=ヤシキマワリ	アオダイショウ	ほ乳類	-	-	田村百合子
栗の木にいる幼虫(カミキリムシ?)を食べ	カミキリムシ?	昆虫類	約40年前	栗の木	田村百合子
メダカが減少	メダカ	魚類	近年	水場	田村百合子
川魚はあまり見ないし食べない		魚類	随時	波見川	田村百合子
ヤマブドウ=グンダ	ヤマブドウ	植物	-	山	田村百合子
ノネズミがモグラのトンネルの再利用	ノネズミ	ほ乳類	近年	畑まわり	品川泰志
犬に襲われタヌキ寝入りをずる(死んだふり)のをみた	タヌキ	ほ乳類	近年	-	田村嘉久芳
ヤマノイモの種芋を掘り返す	イノシシ	ほ乳類	近年	畑	品川泰志
「サルは殺すのに抵抗がある(ヒトに似ているから)」 狸師談	サル	ほ乳類	?	-	山本鉄治
笹の葉を集めて作った寝床を見た	イノシシ	ほ乳類	近年		黄前ひさえ
野生のミツバチの蜜をとる	ミツバチ	昆虫類	近年(随時)	山	田村百合子
アナグマ=ダイコダヌキ	アナグマ	ほ乳類	-	-	田村百合子
テンが流しにやってきたので殴ったら気絶した	テン	ほ乳類	?	台所	山本鉄治
冬場イタチが台所に入ってきた	イタチ	ほ乳類	?	台所	黄前ひさえ
キジが畑にまいた種芋をつつく	キジ	鳥類	近年	畑	品川泰志
モグラが農作物の横を通ると形が変わって損害がで	モグラ	ほ乳類	随時	畑	品川泰志
昔あった隠居屋敷には屋敷ヘビ(ぬし)が住みつい		ほ乳類	?	家屋	黄前ひさえ
ホトトギスの声を聞いた	ホトトギス	鳥類	2001調査中	山のそば	谷・璃梨香
トノサマガエルをみた	トノサマガエル	両生類	2001調査中	水場	谷・璃梨香
セミの羽化をみた	ブラゼミ	昆虫類	2001調査中	道ばた	谷・璃梨香
ヤマカガシをみた	ヤマカガシ	ほ乳類	2001調査中	品川さんの畑	谷・璃梨香

笹の葉を集めて作ったイノシシの寝床

狸が犬に襲われ死んだふりした

野ネズミがモグラの穴を再利用

テンが流しにきたので殴ったら気絶した



使用価値の世界を学ぶ (宮津市養老地区)

40年前
に貼った
柿渋和紙



毎年9月に渋柿をもいで柿
渋をつくり

農具としての「ザル」に柿
渋で和紙を貼り

40年間も使い続けている

柿渋ザル (2011年11月)



柿渋用の渋柿をぼる



コガキを集める



へたない



果実を砕く



水を加える



2~3日漬ける



しぼる



保存

デザイン提案



柿渋染め技術を生かした和紙容器のデザイン



Subsistence(自立自存)

もったいない
自然共生・共生循環
自分の力で生きる

ウドの一物全体活用



ウド



地中茎：酢の物



皮：きんぴら



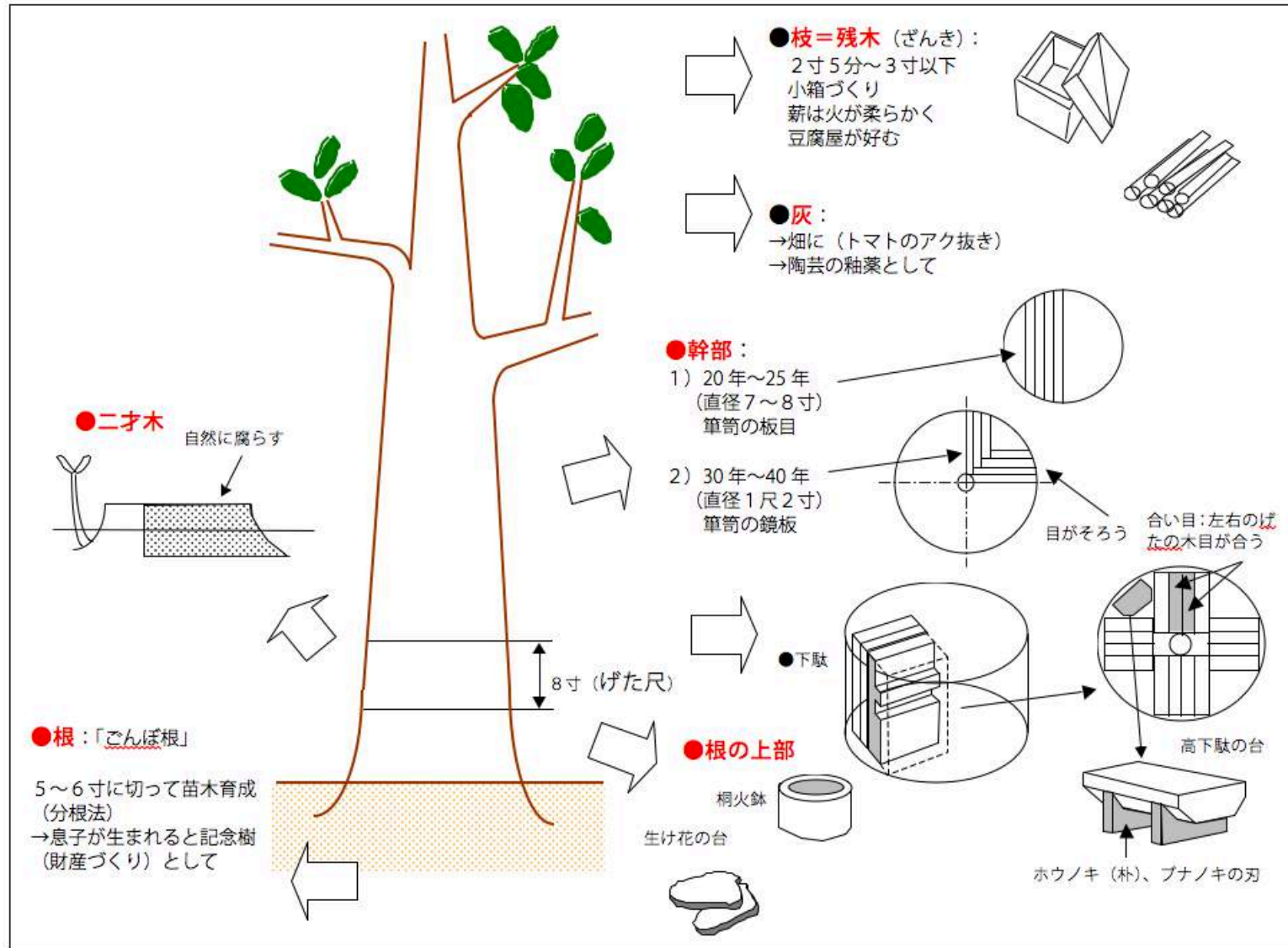
若芽：天ぷら



茎：煮付け

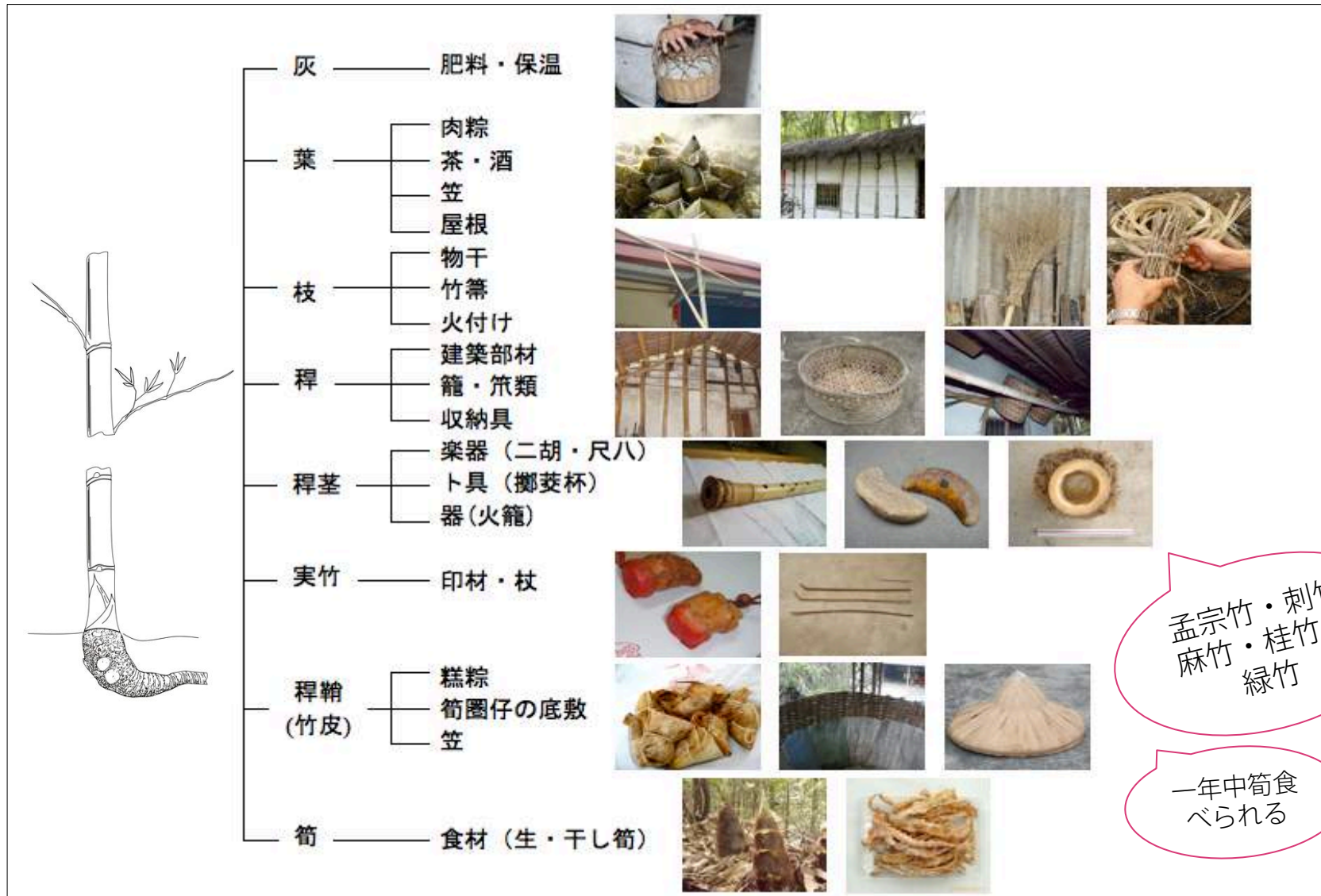
生物が生きているというのは、丸ごと全体で様々なバランスが取れているということであり、そのバランスのまま人体に摂取することが人体内のバランスを取るのにも望ましいという考え方

桐の一物全体活用



福島県三島町の会津桐にみる一物全体活用

台湾・竹の一物全体活用



台湾・南投県竹山鎮における竹具調査

自然の造形を道具
に見立てて使う

ブリコラージュ

宮津市養老・奥波見集落（桶職人YT氏手作り）



方杖

雪の重みで曲がった
根曲り材を、田んぼ
脇の農具小屋の屋根
の支え「方杖（ほお
づえ）」として生か
している



背板・シヨイコ



梯子掛け用フック



砥石台（2011年11月）

今も
現役

木の幹と枝の部位で
ある自然の造形の一部を「道具（砥石
台）」として見立て、
生かしている



イツキの枝
の物掛け棒
と杖

ブリコラージュ演習

ブリコラージュを生かした根曲がり材のベンチづくり

背中がぴっ
たり！



宮津市

地球デザインスクール

ブリコラージュ演習

竹箸・竹皿・竹コップづくり・竹筒炊飯

孟宗竹で
食器づくり



竹筒炊飯



2008年12月

京のしまつ

1) 米のとぎ汁のしまつ

- ・米のとぎ汁で筍の灰汁抜きをする

2) 水のしまつ

- ・上バケツと下バケツの水を使い分ける

3) 食材のしまつ

- ・使ったお茶の葉で佃煮をつくる

4) 着物・布のしまつ

- ・着物で布団や座布団を作る

悉皆屋

5) 布団のしまつ

- ・布団を打ち直す

6) 道具のしまつ

- ・鍋は鋳掛け屋で直してもらう

7) 家具のしまつ

- ・障子をはりかえる

8) 紙のしまつ

- ・和菓子をのせた懐紙をもう一度使う

9) 糸・ひものしまつ

- ・残った糸くずで雑巾を縫う

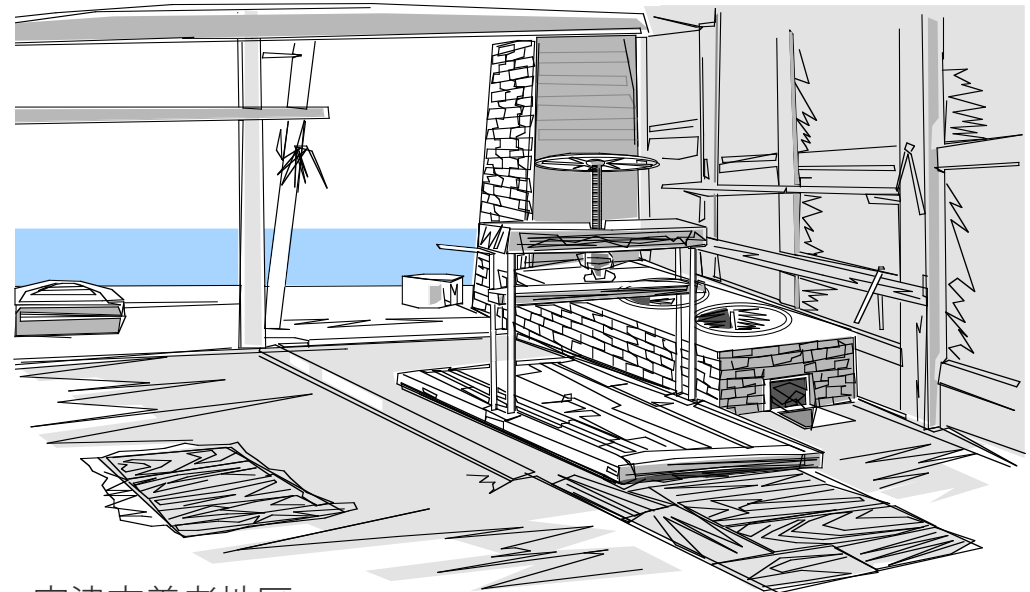
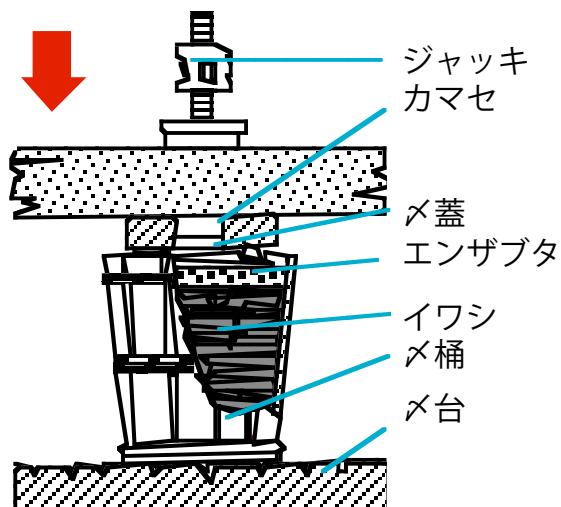


10) その他のしまつ

- ・髪の毛を残しておいて針山の中身にする

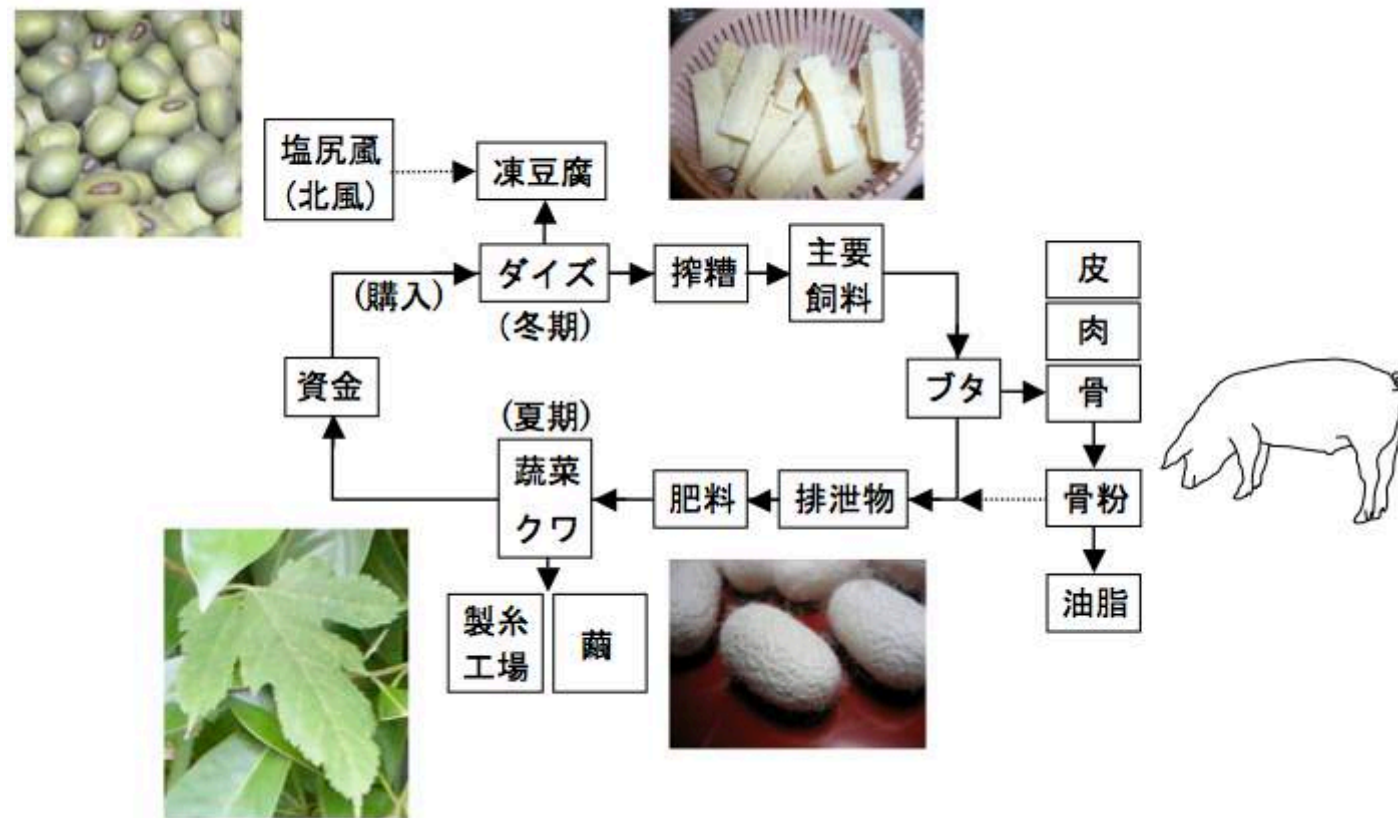
鰯のしまつ・シメカス工場

イワシを大なべに入れて「くど」と呼ばれるかまどで煮る。煮上がったらスクイデですくい、シメ桶に移す。シメ桶には脇に隙間が開けられている。蓋をしてジャッキで締めていくと、桶の隙間からシメ汁がでてくる。シメ汁は床下でイワシ油（石けん原料）とシメ汁（桑の肥料）に分離される。一方、搾った後のシメカスはカケヤで崩し、天日で干して俵に詰められ、肥料会社に舟で運ばれる。



宮津市養老地区

しまつ・共生循環・風土産業

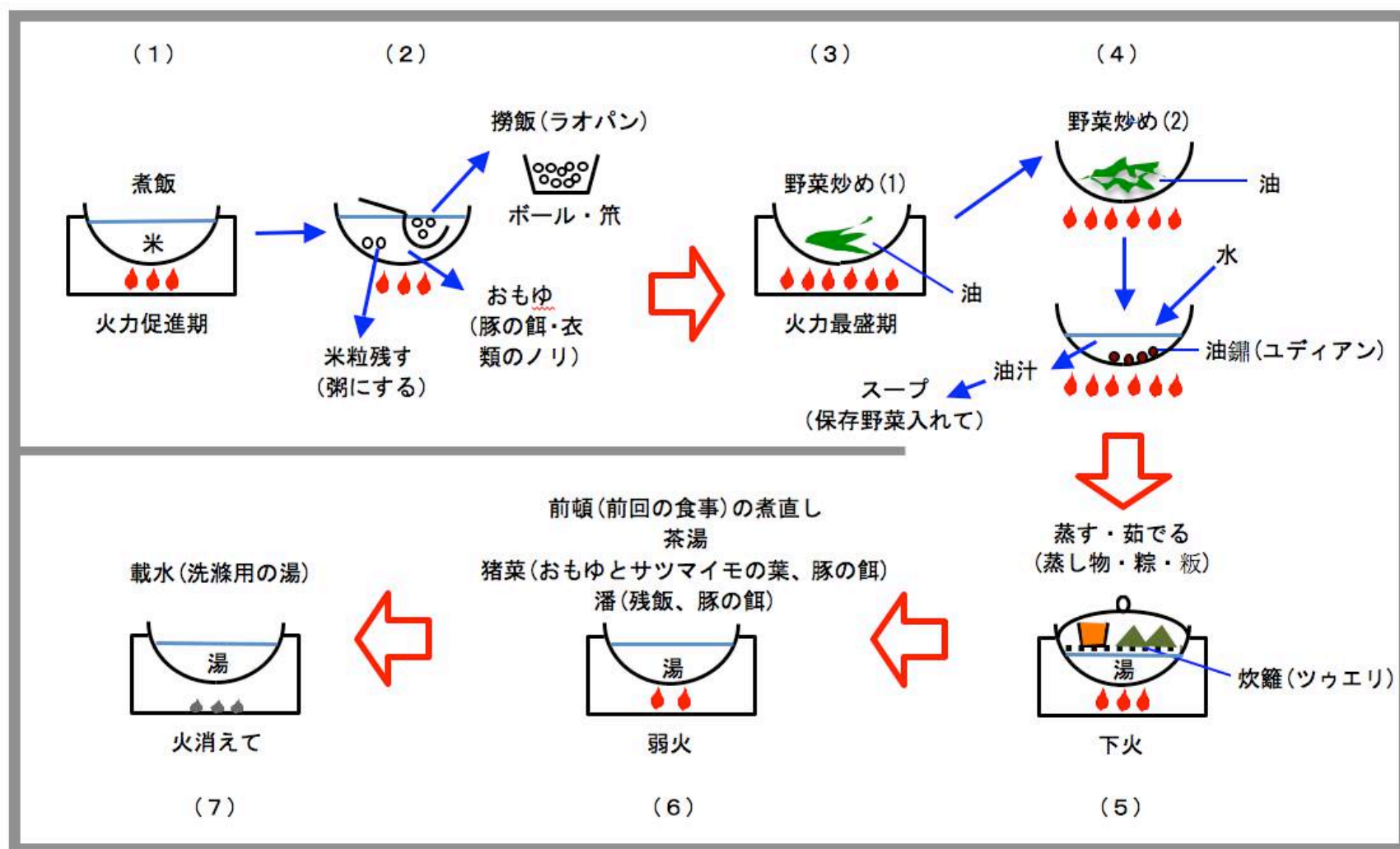


- 1) 冬期、寒い塩尻風(しおじりおろし)が吹く晩に、大豆で凍み豆腐(しみどうふ)をつくる。
- 2) 豆腐の絞りかすは豚の主要飼料となり、豚の排泄物は養蚕用のクワの肥料や夏期蔬菜の肥料となる。
- 3) 一方、豚は、肉・皮以外に骨は骨粉(肥料)や油脂として利用される。
- 4) 蚕はクワを食べて繭をつくる。その繭は製糸工場で生糸に紡がれる。
- 5) 繭を売った収入は、冬期の凍み豆腐づくりに向けて、大豆購入の資金となる。

かくして、塩尻峠横川部落の「気候風土」と「凍み豆腐づくり」「養豚」「養蚕」は、互いに有機的に関わながら、共生循環の輪を成り立たせてきた。(三澤勝衛、風土産業、古今書院、1952、より)

しまつ・台湾客家・大鍋食文化

火の加減に合わせて、炊飯、おもゆ、粥、野菜炒め、スープ、蒸し物、粽、粄、豚の餌、洗濯用の湯沸かしなど、1つの大鍋で、火を無駄にせず、多様な調理を行う



自立自存・Subsistenceな生き方

自然と共生しながらサブシステム(自立自存)な生き方をする宮津市・山田昭氏の暮らし



内臓を取ったイノシシを川で半日冷やし、2日間干し、皮をはぎ、解体し冷凍する。エノキ・シメジ・シラタキ・タマネギの芽と猪鍋にする



コノシロの卵、シンコーイカ・カタクチイワシの煮付



シャククリに効く柿の蒂(ヘタ)を保存



石臼の引き手用ツツジ・ピワ(プリコラージュ)



キンカンの栽培



野フキを採り煮物に



柿の皮の保存



裏山のみかん



イノシシワナ用の屑米



炭焼き窯



粃殻でウドの栽培



大敷網のコノシロ(コハダ)タラの芽の栽培の酔しめ



タラの芽の栽培



タケノコと手作りコンニャクの煮付け



椎茸の採集と保存



孟宗竹と真竹で竹筍づくり



エビ採り用の網



イノシシ猟のワナ



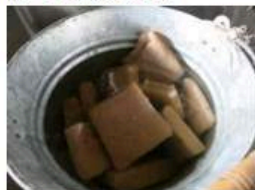
手長エビ漁のモンドリ



石垣積みも山田氏が行う



タラの芽・竹輪・コンニャクの天ぷら



手作りのコンニャク



山田昭氏宅



ニンニク保存



タケノコ掘り



手作りの藁箒



ブロッコリーの新芽



薪ストーブ・消し炭・灰



収納小屋、作業小屋が並ぶ



コンニャク芋の保存



栗の木のシラタ(白肌)は腐るが芯は腐らず利用する



薪を積み備蓄する

自立自存・Subsistenceな生き方

自然と共生しながら サブシステム(自立自存)な生き方をすると

自分の力で生きる

ほとんどの食材は購入しないで自分でつくる

自給自足
self-sufficiency

物々交換やおたがいさまの気持ちで地域共生する

互酬性
Reciprocity

必要十分
sufficient

手長エビ漁は食べきれる量だけおこなう

手長エビは高級食でも市場に出さない

非市場経済
Non-market Economics

共同体規範
community rule

手長エビ漁の仕掛けは20基以内とする

筍・ミョウガなど塩漬けて保存する

備え・保存
preparation

自己規範
self standard

タラの芽は同じところから3度摘まない

もったいない
Don't Waste

浜でホカス雑魚小魚をもらい調理する

(宮津市由良地区・山田昭氏の暮らしより)

東日本大震災（2011・3・11）



従来の日本人の生活スタイルや価値基準の見直し



本来的な暮らしのあり方
サブシステンスな（自分の力で生きる）
人間の生き方の探求



岩手県大船渡市、2011・10・三橋撮影



遊び

あそび心を大切に

遊びをせんとや生れけむ
戯れせんとや生れけむ
遊ぶ子供の声聞けば
我が身さへこそゆるがるれ

梁塵秘抄

平安時代末期、貴族社会で流行した今様歌謡
編者・後白河法皇 1180年頃

アソビを生業とする遊女が、まるで遊ぶために生まれてきたみたいに
無心に遊ぶ童子らの声を聞いて
人間は苦しい道のりを歩まなくてはならない存在であるけれど
だからこそ、遊び戯れる子供の声の可憐さ・いとおしさに
自分の身体も心も動かされる

Homo Ludens
ホモ・ルーデンス

Johan Huizinga
オランダの歴史家

遊戯人

Homo Sapiens
Homo Loquens
Homo Faber
Homo Demens



「Social Design・社会をデザインする」姿勢を保ちつつ
今後、「曲がり角」の向こうに
新たな地平を見つけていこうと思います。



ご静聴、ありがとうございました。